

話したいという気持ちさえあれば



函南中学校 3年
かわさき まい
川崎 舞さん

私が8歳の頃、初めて行った母の故郷のフィリピンでは、母はとても楽しそうに家族と話していました。そんな時、みんなの輪から離れて部屋の隅に座っていた私に、「こやかに話しかけてくれる人がいました。それは、母の兄、私の伯父にあたる人でした。日本語で話しかけられたことに驚きと疑問がわきました。違う言葉を話す人とのコミュニケーションをとる難しさを感じていた私に「話したい気持ちさえあれば、相手も応えてくれるよ。」と教えてくれました。

それから、少しずつ会話する時間が楽しく感じられました。コミュニケーションは、心と心をつなぎ、世界を広げる素敵なものだと思いました。私は、違う言葉を話すことで世界が広がるのだと感じました。

中学生になった私は、コミュニケーションがとれずに困っている人に、私ができることはないのだろうか、と考えるようになりました。そのとき、伯父の言葉を思い出しました。かつて私が淋しさを楽しさに変えてもらったように、私の言葉で周りの人の世界を変えられる人になりたいです。

そのために、まずは英語を話せるようにして、多くの人とコミュニケーションをとれるようになりたいです。そして、「話すという気持ち」を大切に、国や年代にかかわらず誰とでも「話の出来る人」を目指したいと思っています。

どうでもいふこと



東中学校 3年
ちば たいし
千葉 大志さん

その人にとっては「どうでもいい」ことでも、他の誰かにとっては「どうでもよくない」と考えられることがあるのではないかとこのことに思い当たりました。

私には、後悔していることがあります。人の名前を覚えることが苦手な私は、それがきっかけで友人を傷つけてしまったことがあったのです。名前を呼ぶことでお互いを認め、関係を築いていくこと、相手との関係を大事に思っていることを気付かされました。なぜ今までこんな大切なことに気づかなかつたのだろうと不思議にさえ思いました。

この経験をきっかけに、私は2つのことを学びました。1つ目は、自分にとって「どうでもいい」ことであっても、相手にとっては大事なことがあるということです。2つ目は、「どうでもいい」ことを見つめなおすことで、新たな視点を得られるということです。

みなさんにも「どうでもいい」と思っていることはありませんか。また、「どうでもいい」と思っていることに気が付いていますか。私にはまだまだ「どうでもいい」と関心を持っていないことがたくさんあります。そこには、まだ私の知らない世界が広がっているということに気づくことができました。これからは、自分が「どうでもいい」と切り捨てていることがないか、自分に問い、積極的に踏み込むことで一歩前に進んでいきたいと思っています。

これからの農業経営



田方農業高校 1年
あらい けいご
荒井 桂吾さん

私の父は農業をしていて、ハウスでイチゴの栽培をしています。苗の手入れなどをしていて父の背中を見て育ち、父の跡を継ぎたいと思います、田方農業高校に入学しました。ある日、父が家族会議をしようと言いだしたことがありました。その家族会議の内容は、売り物にできないようなイチゴを使って加工品を作ってみようというものでした。そして、ジャムを作り、新しく出来たゲートウェイ函南で販売しました。

新しい事業への取り組みであるジャムや直売所でのイチゴの販売を通じて、お客様の笑顔や「おいしい」と言っていた言葉に、充実感のある喜び、そして、もつがらばろうというやる気が出てきます。

これからの経営で、父や家族と家族会議を通して決めたことを実践していきたいと考えています。新しいイチゴの品種の栽培、病気に強いおいしい品種作り、新しい商品の開発などを、家族と話しました。

青々とした草や木に囲まれて育った私は、現在まで仕事をしている父の背中をずっと見てきました。いつしか父の仕事に憧れを持ち、跡を継ぐのに今まで述べてきたような経営が大事ということがわかりました。私は、これからの農業経営で、父と共に農作物の研究をしたり、加工・販売を行って、しっかりと農業経営をしていきたいと思っています。

第68回社会を明るくする運動ポスター入賞作品



社会福祉協議会長賞 桑村小6年 熊木 心春さん
教育長賞 東小6年 吉川 和香さん
町議会議長賞 函南中2年 阿部 ころろさん
函南町長賞 東中3年 三澤 ゆうかさん
三島地区更生保護女性会長賞 函南小4年 長島 夢華さん
三島地区保護司会長賞 丹那小6年 柴田 琥太郎さん
校長会長賞 西小6年 櫻井 千咲姫さん

活動事例発表

青少年の健全育成を目的の1つとして活動する2団体による活動事例発表が行われました。



函南町子ども会連合会



函南町シャギリ連合会

青少年健全育成大会の目的

子どもを育てることは未来の地域の人材を育てることです。現在、家庭のあり方が多様化して行政などの支援が必要になっているケースもしばしば見受けられます。

子どもたちが健やかに育つには、地域、学校、家庭の連携が必要です。子どもたちが元気に成長できる環境をつくるために、地域みんなで協力していきましょう。そして、函南町から「未来をほばたく若い力」を育てましょう。



司会をする渡邊愛夏さん(左)と高橋孝太さん(右)
(ともに函南中学校 3年)